

産業廃棄物に係る実態調査結果（17年度実績）について

平成17年度に岡山県内で発生した産業廃棄物の発生、処理状況等の実態を調査し、第1次廃棄物処理計画（平成13年度～平成17年度）で設定されている数値目標等の達成状況を評価した。

1 調査方法

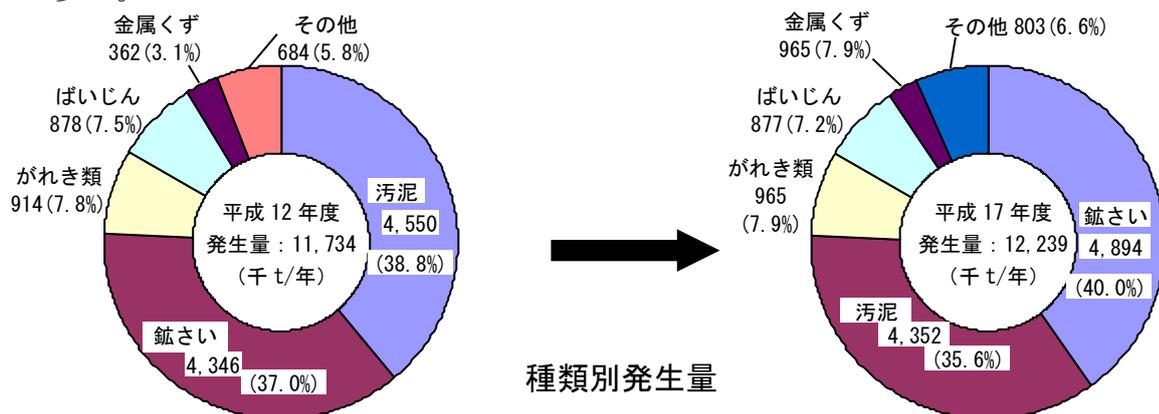
平成17年度に実施した産業廃棄物実態調査（平成16年度実績）を基に、産業廃棄物多量排出事業者からの処理計画及び実施状況報告、産業廃棄物処理業者からの処理実績報告等を用いて、平成17年度における岡山県内の産業廃棄物の発生量等を推計した。

2 調査結果

平成17年度に県内で発生した産業廃棄物は12,239千tであり、第1次岡山県廃棄物処理計画の基準年である平成12年度の11,734千tと比べると505千t増加した。

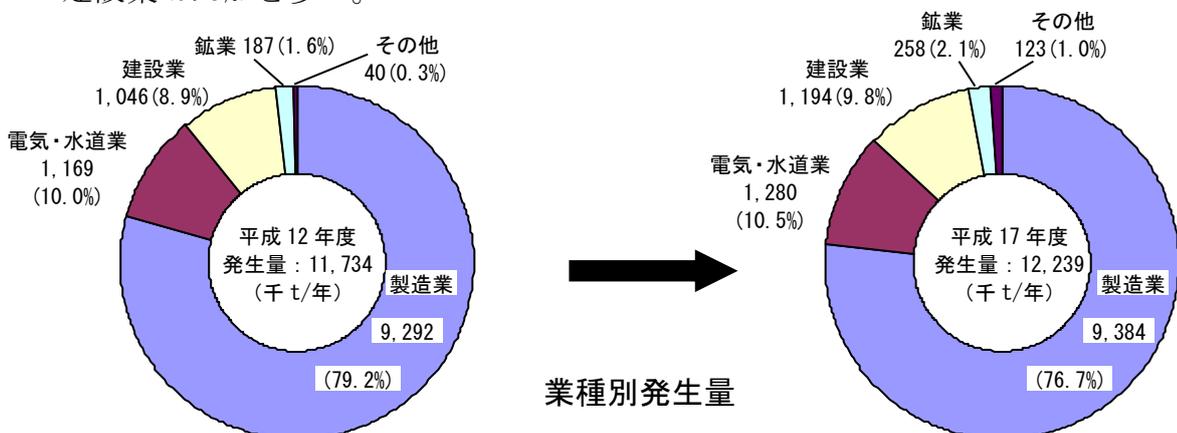
(1) 種類別発生状況

種類別の発生量は、鉱さいが4,894千t<40.0%>と最も多く、次に汚泥が<35.6%>と多い。



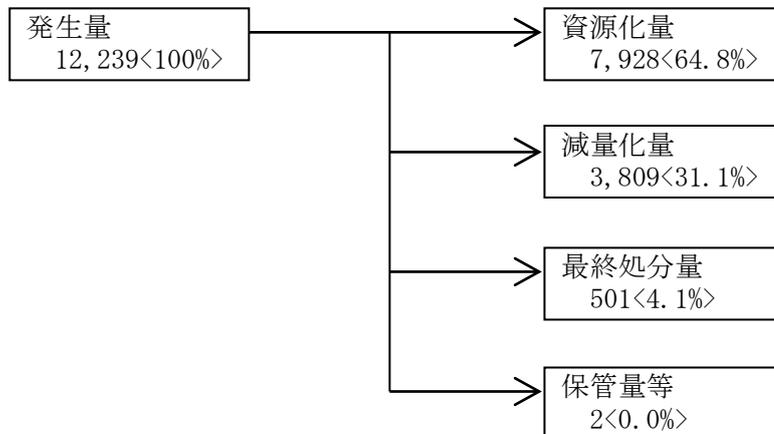
(2) 業種別発生状況

業種別では、製造業が9,384千tと全体の<76.7%>を占め、次に電気・水道業<10.5%>、建設業<9.8%>と多い。



(3) 処理状況

発生した産業廃棄物 12,239 千 t のうち、再生利用などにより資源化されたものは 7,928 千 t<64.8%>、脱水や焼却等の中間処理により減量化されたものは 3,809 千 t<31.1%>、埋立により最終処分されたものは 501 千 t<4.1%>となっている。



注：<>内の数値は発生量に対する割合

3 第1次岡山県廃棄物処理計画（平成13～17年度）の目標達成状況等

(単位：千 t/年)

項目 \ 年度	H12年度 (基準年) 実績	H14年度 実績	H15年度 実績	H16年度 実績	H17年度 実績	H17年度 目標
発生量	11,734 <100%>	11,685 <100%>	12,158 <100%>	12,224 <100%>	12,239 <100%>	11,007 <100%>
有償物量	4,769	4,857	5,176	5,247	5,268	-
排出量	6,965	6,828	6,982	6,977	6,971	-
資源化・減量化量	10,715 <91.3%>	10,789 <92.4%>	11,570 <95.2%>	11,704 <95.8%>	11,737 <95.9%>	10,186 <92.6%>
資源化量	6,826 <58.2%>	6,915 <59.2%>	7,459 <61.4%>	7,906 <64.7%>	7,928 <64.8%>	6,565 <59.7%>
減量化量	3,889 <33.1%>	3,874 <33.2%>	4,111 <33.8%>	3,798 <31.1%>	3,809 <31.1%>	3,620 <33.0%>
最終処分量	1,005 <8.65%>	881 <7.5%>	582 <4.8%>	510 <4.2%>	501 <4.1%>	808 <7.3%>
保管量	13 <0.1%>	15 <0.1%>	6 <0.0%>	10 <0.1%>	2 <0.0%>	13 <0.1%>

注 <>内の数値は発生量に対する割合

(1) 発生量

平成17年度の発生量は12,239千tであり、目標値(11,007千t)の約1.11倍であり、目標は達成できなかった。さらに排出事業者である企業に対して、発生抑制の取組を働きかけていく必要がある。

(2) 資源化・減量化量

平成17年度の資源化・減量化量は、リサイクル等が大きく進み11,737t(95.9%)となり、目標の10,186t(92.6%)を量・率ともに達成した。

(3) 最終処分量

平成17年度最終処分量は501千t(4.1%)であり、目標の808千t(7.3%)を量・

率ともに達成した。

(4) 発生量等の推移

発生量等の推移をみると、平成 15 年度に資源化量が大幅に増加し、最終処分量が大幅に減少している。

これは建設リサイクル法の全面施行（平成 14 年 5 月）のほか、産業廃棄物処理税の導入（平成 15 年 4 月）、再生骨材等の岡山県エコ製品認定（平成 15 年 8 月）などにより、リサイクル等が進展したことが大きな要因と考えられる。

発生量等の経年変化

(千 t/年)

